

機関番号：32809

研究種目：若手研究(B)

研究期間：平成20年度～平成22年度

課題番号：20791805

研究課題名(和文) 『生きるための心の教育(性教育)』を用いた若年層の性問題予防地域システムの開発

研究課題名(英文) The effect of continuous systematic sex education program

研究代表者

渡會 睦子 (WATARAI MUTSUKO)

東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科・准教授

研究者番号：50360003

研究成果の概要(和文)：本研究では、『生きるための心の教育(性教育)』を用いた若年層の性問題予防地域システムを開発し、山形県の人工妊娠中絶率を2000年18.3(全国6位)から2008年5.0(全国44位)と約1/3に、性器クラミジア感染症を2000年8.8から2007年1.5と約1/6に減少させ、福島県では2006年より導入し、人工妊娠中絶率を2005年13.3(全国4位)から2008年8.6(全国15位)に低下させ、効果を示した。

研究成果の概要(英文)：I made a sex education program for high school, junior high school, and elementary school students intended to decrease STIs. In 2003 and 2006, we developed a continuous systematic sex education program and matching educational materials for the young generations in the Yamagata and Fukushima Prefecture.

These educations were expanded in cooperation with the Education Committee in 2004. Up to 2009, the teenage artificial abortion rate decreased remarkably, and genital *chlamydial trachomatis* infection of patients in their teens up to 24 years old decreased in the Yamagata prefecture. The teenage induced abortion rate decreased to about one-third from 18.3 to 6.6 per 1000 teenage girls. Sex education has been performed, and the total numbers of 4 STIs studied i. e., *chlamydia trachomatis* infection, genital herpes virus infection, *condyloma acuminatum* and gonococci infection, decreased remarkably.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2100,000	630,000	2,730,000

研究分野：医師薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：性教育 人工妊娠中絶 対策 性感染症 予防 若年層 心の教育 教育委員会

1. 研究開始当初の背景

1996年より保健所保健師として、性感染症などの性問題について地域診断を行い、分析・対策を図ってきた。学校現場での性教育は、文部科学省学習指導要領には定められてはいるものの、教師自体も性教育を学んだ経

験が少ないため必要性の認識が薄く、系統的に教育している学校は少ない現状にある。学校教育は食育等あらゆる方面に拡大しているが、「生きるための心を学ぶ教育(性教育)」への大人たちの関心と認識は薄い。

本研究者は、地域の性問題を解決するために

は大人たちの認識を変えることがまず重要であり、「自分や相手の心と体を大切にす」心が養われない限り性問題は予防できないと考え、「生きるための心の教育（性教育）」を実践してきた。

地域全体の知識と意識を底上げしていくために、マスコミ・自治体広報等とも連携し、高等学校・中学校・小学校・PTA や教職員へ講演会を実施してきた。その後、大学研究者として、性教育の実態を明らかにするため山形市教育委員会等と実態調査に取組み⁵⁾、調査結果を基にした「生きるための心の教育（性教育）」教材を作成した。

2000 年から学校現場で使われ始め改良を重ね、2003 年に山形県教育委員会が導入、各学校の担任教師が実践できるよう教師対象研修会を繰り返し、2005 年には 15 歳以上 20 歳未満人工妊娠中絶・性器クラミジア感染症を取り組み前に比較し半減させた。

これらを受け、今後の研究では性問題対策をシステム化し、日本の性問題の第一次・二次予防として活用できるようにしたい。

2. 研究の目的

近年、わが国では性行動の低年齢化とともに若年層の妊娠・人工妊娠中絶、性感染症が問題になっている。しかし、性の問題は地域においてタブー視されやすく、対策が遅れているのが日本の現状である。

これまで本研究者は、山形県小・中・高等学校生を対象に『生きるための心の教育（性教育）』として教育プログラム研究を行い、15 歳以上 20 歳未満の人工妊娠中絶率（年齢階層別女子人口千人対）を 2000 年 18.3 全国 6 位から 2005 年 8.8 全国 30 位、性器クラミジア感染症を定点あたり 2000 年 8.8 から 2005 年 4.4 に低下させた。

このたび本研究では山形県で実績を上げた教育プログラムを福島県に活用し、導入前・後の中・高等学校生・その家族・地域の実態を調査することで、家庭・保健行政・地域の学校保健をサポートしていくためのポイントと方法が明確になる。それらの結果とこれまでの活動実績とを併せることによって、『生きるための心の教育（性教育）』を用いた若年層の性問題予防地域システムを開発する。

3. 研究の方法

- 1) 年齢階級別性感染症率・年齢階級別人工妊娠中絶率の分析を行う。
- 2) これまでの山形県における活動方法と実績を併せ分析する。
- 3) A～D の分析を併せ、若年層における性問題予防地域システム案を作成する。
- 4) システム案を用いて、福島県内の教育委員会・保健所保健師・市町村保健師、PTA 連合

会各支部代表と討論会をもち、エビデンスを明確にし、より実現可能な『生きるための心の教育（性教育）』を用いた若年層の性問題予防地域システムを開発する。

4. 研究成果

1) 保健行政と性感染症対策

日本の保健政策には、21 世紀の母子保健について関係機関・団体が一体となり取り組むことを目的とした国民運動である「健やか親子 21」がある。健やか親子 21 では思春期の保健対策の強化と健康教育が推進されており、思春期の人工妊娠中絶や性感染症、薬物乱用等の増加等の問題や心身症、不登校、引きこもり等の心の問題等が含まれている。平成 17 年には、厚生労働省より中間評価報告書が公表され、

- ・十代の自殺率と性感染症罹患率は改善が認められなかった。
 - ・十代の人工妊娠中絶実施率は減少傾向にあるもののその要因は明らかではなく、地域格差もあるため、今後更なる分析が必要である。
 - ・これらに対する取組を推進するとともに、その効果を評価する必要がある。
- との報告があった¹⁾。

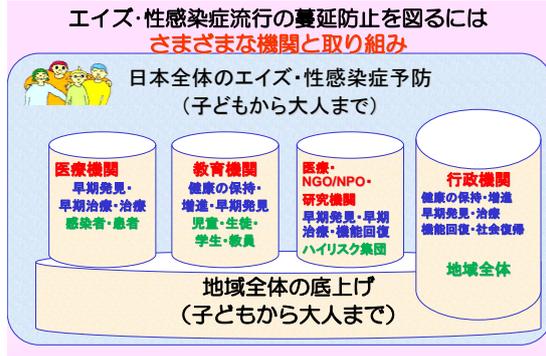
本研究者が行ってきた山形県における保健行政・NGO の保健師としての活動は、当初、性感染症罹患率の低下を目的としたものであった。しかし、性感染症罹患率の低下のためには子どもたちの自尊心を高める教育を根底にした性問題予防知識を与え、意識と行動を変化させることが重要であった。よって、これらの心の教育を含む性教育を実践したところ、人工妊娠中絶率・性感染症罹患率を県単位で低下させることに成功したので、この成果分析を福島県にも同様に実施し分析した。

2) 地域における保健行政の性問題対策

近年、わが国では性行動の低年齢化とともに若年層の性感染症・妊娠・人工妊娠中絶等の問題が深刻化している。しかし、それらの教育はタブー視されやすく対策が遅れているのも事実である。

日本における性感染症予防対策には様々な形がある。その形には、医療機関における感染者・患者を対象とする「早期発見・早期治療・治療」、教育機関における児童・生徒・学生・教員を対象とする性教育や保健指導等による「健康の保持・増進・早期発見」、医療機関・NGO/NPO・研究機関におけるハイリスク集団への取り組みによる「早期発見・早期治療・治療・社会復帰」、保健行政の地域社会への取り組みによる「健康の保持・増進・早期発見、機能回復・社会復帰」等がある(図 1)。

図1 性問題対策とさまざまな取り組み



しかし、これらを地域においてうまく機能させるためには、それぞれの立場が対策を進めつつ、地域対策として抜けている部分をお互いに補い合っていくことが重要となる。

保健師は地域で様々な関係機関が連携を図っていくための調整役を行うことも役割の一つとされる。また、保健所における性問題対策は、感染症対策・母子保健・精神保健の担当部署で扱われている。その他にも、地域組織活動支援・健康づくり・普及啓発・企画等の担当にも関係し、その保健所管内における行政の保健計画に性問題対策を反映していくこともできる。これらの横のつながりを強化し、その地域の歴史、地域性、時代に合った保健師活動を実践することが望ましい。

3) 山形県における「生きるための心の教育：性教育」の普及

これまで山形県を中心に保健所保健師として、1999年より NGO(Peer Network Yamagata) 代表として活動してきた。その活動では、意識調査等を経て、県・市町村教育委員会・教師・保護者・地域の人々と連携し、小・中・高等学校各学年の各発達段階に応じた系統的・継続的な PowerPoint 性教育教材の作成・配布・教育・指導のシステム作りを実践してきた。

そのシステム化では、「生きるための心の教育：性教育」教材を作成し配布するだけでなく、教材使用前、直後、3ヵ月後の知識・意識・行動変化に関する調査分析³⁾したり、教育委員会主催の校長会・教員・PTA 対象講演会、模擬授業、教材使用説明会を開催してきた。また、積極的に地域の人工妊娠中絶率・性感染症罹患率の現実とデータについて、テレビ・ラジオ・新聞等を通し周知した。これらのことは、地域の大人の知識普及につながり、多くの大人の性教育に対する認識を高め、性教育の推進・継続につながっていった。その取り組みを福島県においても 2004 年より同様に行った。

4) 「生きるための心の教育：性教育」教材内容

図2 『生きるための心の教育（性教育）』小学生用プログラム

実際の系統的継続的教育の内容（小学生）



図3 『生きるための心の教育（性教育）』中学生用プログラム

実際の系統的継続的教育の内容（中学生）



図4 『生きるための心の教育（性教育）』高校生用プログラム

実際の系統的継続的教育の内容（高校生）



小学生には命の尊さや体と心を大切に
する意味を伝え自尊心を養い(図2)⁴⁾、中学生には命の尊さや体と心を大切に
する意味に加えて、思春期の複雑な心と体や性のリスク(図3)⁵⁾、高等学校生には命の尊さや体と心を大切に
する意味に加えて、大人としての責任や性のリスクを伝え、性行為は経済的・生
活的・精神的・性的自立ができていなければ大変危険なリスクを伴う行為であること等
を青年期の発達課題を利用しながら教えていった。また、孔子やカント、生命倫理、男
女平等参画、子育て、青年期の課題等々を盛り込み、性教育の時間確保が困難な中、様
々な教科でのちや性について触れられるよう工夫した(図4)⁶⁾⁷⁾。そして、PowerPoint
のノート部分には、教育時に何を教育したらよいか等を書き加え、約600枚のスライド教

材になった。

この性教育教材の高等学校卒業時の最終目標は、「大人になる責任について学び、青年期の課題を果たすことにある。その結果、

- ・「相手と自分の心と体」を守ることの出来る知識をもつ
- ・「相手と自分の心と体」を守る意識をもつ
- ・今の行動が将来の自分と大切な家族を脅かす可能性を見通す力をもつ
- ・「相手と自分の心と体」を守る話し合いができ、そして、行動をコントロールできるを身につけ、性問題の予防も果たすことにつながるのである。

当初、この性教育の内容は山形県内で実施した調査結果に対応させ作成していたが、性教育バッシング等の問題も発生し、小学・中学・高等学校生の各学年の文部科学省学習指導要領から逸脱しないよう再編した。そして、山形県・福島県等の県教育委員会と連携し、教材を配布、教育方法の普及活動も積極的に行い、県下の各学校に対し性教育を普及していった。

5) 「生きるための心の教育：性教育」の福島県への導入と結果

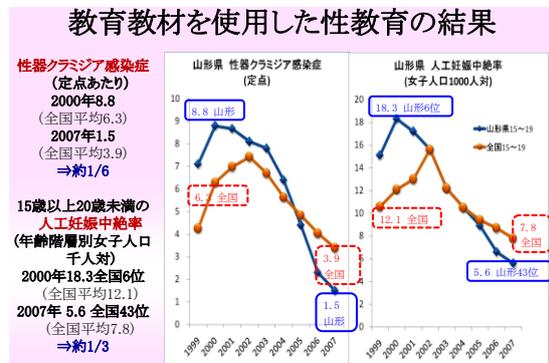
本研究では、福島県、これまでの山形県での実績・効果分析により、性問題予防地域システムを開発することを目的としている。また、これまでの研究結果も併せて性問題予防地域システム案を作成し、実現可能な『生きるための心の教育（性教育）』を用いた若年層の性問題予防地域システムを開発することを目的としており、下記の研究を進めた。

系統的・継続的性(命)の教育実践のため、県・市町村教育委員会・教師・保護者・地域と連携し、小中高等学校各学年用の性(命)の教育プログラムと PowerPoint 教材である「生きるための心の教育：性教育」を作成し、県単位での小・中・高等学校各学年の各発達段階に応じた系統的・継続的な PowerPoint 性教育教材の作成・配布・教育・指導のシステム化を実践した。

「生きるための心の教育：性教育」教材・システムの導入県である山形県と福島県を対象とし効果を測定した。小学校から高等学校までの性教育効果が表れる指標として、15歳以上20歳未満の人工妊娠中絶率(年齢階層別女子人口千人対)と性感染症である性器クラミジア感染症の定点あたり報告数に焦点を当て、性教育教材・システムの導入前後の比較を行った。山形県では1999年から取り組んできたが、2001年から性に関する知識・意識・経験等の現状調査を開始し、2003年に山形市教育委員会が教材・システムを導入し、2005年に全県下での導入が行われた。その結果、人工妊娠中絶率を2000年18.3全国6位から2008年5.0全国44位と約1/3に、性

器クラミジア感染症を2000年8.8から2007年1.5と約1/6に減少させることに成功した。福島県においても同様に2006年より導入し、人工妊娠中絶率を2005年13.3全国4位から2008年8.6全国15位に低下させ、性問題予防地域システムが効果を示すことが明らかになった(図5)。

図5 性教育と性問題の評価



6) 今後の地域における保健行政の役割

性感染症予防にはコンドームの使用が重要であるが、コンドームを使用するためには、自分の心と体を守るための自尊心や他の人を大切に思う気持ちが不可欠となる。

保健所保健師として感染症対策を担当しコンドームの使用を推進してきたが、母子保健・精神保健における思春期対策を加味すると、性問題対策には思春期の揺れ動きやすい心に対する教育が大変重要であった。心の教育を含んだ性教育が安易な性行為や人工妊娠中絶、性感染症の予防につながったのである。

性問題対策には、保健師の横のつながりを強化し、世論・一次的な感染症対策や取り組みにまどわされず地域を診断し、その地域の歴史、地域性、時代に合った性問題対策・保健師活動を実践することが必要である。

そして保健行政は、改めて把握しているデータを関係機関や住民へ情報提供する役割を見直し、様々な立場にある地域の人々が対策に乗り出そうとする自助力、共助力を引き出す活動につながることが、地域の性問題の減少につながると考える。

今後も地域との連携を重要視し、山形県福島県のみならず各都道府県の地域性にあったシステムを構築していきたい。

文献

- (1) 厚生労働省：「健やか親子21」中間評価報告書について，<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/03/s0316-4.html>
- (2) 渡會睦子：小・中・高等学校生における性の実態と教職に見る性教育の現況。日本性科学学会雑誌，vol. 21, 2003. P. 39-45

- (3) 渡會睦子. 性感染症予防における性(生きるための心の)教育の実践～地域連携による取り組みが大人と子どもたちをかえる～, 日本性感染症学会誌 2006;17(2). 31.
- (4) 渡會睦子. 性(生)教育プログラムと教材(小学生用教材). 東京: 日本家族計画協会 2005.
- (5) 渡會睦子. 性(生)教育プログラムと教材(中学生用教材). 東京: 日本家族計画協会 2005.
- (6) 渡會睦子. 性(生)教育プログラムと教材(高等学校生用教材). 東京: 日本家族計画協会 2006.
- (7) 渡會睦子. 効果的な性教育教材の開発と活用～生きるための心を学ぶ, 性教育を目指して～家族と健康, 日本家族計画協会, 2006;N0629: 4-5.
- (8) 厚生省大臣官房統計情報部, 保健・衛生行政業務報告: 衛生行政報告例, <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001059640>
- (9) 厚生省大臣官房統計情報部, 平成8年-平成16年厚生統計協会, 母体保護統計, 東京, 2006, 厚生統計協会.
- (10) 厚生労働省健康局結核感染症課・国立感染症研究所感染症情報センター: 感染症発生動向調査事業年報, <http://idsc.nih.go.jp/idwr/CDROM/Main.html>

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 渡會 睦子, 思春期の性感染症対策 いま教育・医療現場に求められていること 保健師・地域保健の立場から, 思春期学, 無, 28巻1号, 2010, 30
- ② 渡會睦子, 生きるための心の教育(性教育)-教材を活用して-, 家族と健康, 無, 669, 2009, 4-5
- ③ 渡會睦子, 学校教育の立場から ～エイズ予防活動における学校教育と地域活動～, 保健師・看護師の結核展望, 無, 47, 2009, 38-42
- ④ 竹原健二, 渡會 睦子, 松田智大, 児玉知子 大学生のHIV検査に対する認識と利用状況の実態, 日本エイズ学会誌, 有, 10巻, 2008, 8-16
- ⑤ 渡會 睦子, 若年層を性感染症から守る健康教育, 公衆衛生, 有, 72, 2008, 473-477

[学会発表] (計9件)

- ① 荒川創一 白井千香 渡會睦子 星合

昊, 日本性感染症学会と日本思春期学会との共作によるSTI予防啓発パワーポイントスライド(案)について, 日本性感染症学会, 2010.12.11, 福岡県

- ② 渡會睦子, 「生きるための心の教育: 性教育」教材導入県における性問題予防対策の効果, 第69回日本公衆衛生学会総会, 2010.10.27, 東京都
- ③ Watarai M, The effect of continuous systematic sex education program on sexually transmitted infections including *condyloma acuminatum*: an evaluation in Yamagata Prefecture, 26th International Papillomavirus Conference and Clinical & Public Health Workshops, 2010.7.6, Montréal, Canada
- ④ 渡會睦子, 思春期の性感染症の現状と対策について, 第28回日本思春期学会, 2009.8.29, 静岡県浜松市
- ⑤ 渡會睦子, 『生きるための心の教育(性教育)』を用いた性問題予防地域システム, 第68回日本公衆衛生学会総会, 2009.10.22, 奈良県
- ⑥ 渡會睦子, 三石剛, 萬田和志, HIV郵送検査受検者の意識調査によるHIV検査機会拡大に関する研究, 第68回日本公衆衛生学会総会, 2009.10.23, 奈良県
- ⑦ 渡會睦子, 地域における保健行政の役割, 日本性感染症学会第22回学術大会, 2009.12.12, 京都府
- ⑧ Watarai M, The effect of sex education on sexually transmitted diseases including *condyloma acuminatum*: The case of Yamagata Prefecture, Japan, 5th International HPV & Skin Cancer Conference, 2008.10.23, ドイツ ハイデルベルグ
- ⑨ Kodama T, Matsuda T, Watarai M, Takehara K. Intervention study of HIV prevention among university students, XVII International AIDS conference, 2008.8.1, メキシコ

6. 研究組織

(1) 研究代表者 渡會睦子
(MUTSUKO WATARAI)

東京医療保健大学・医療保健学部・准教授
研究者番号: 50360003